ひだご坊
No.276
2012年7月20日

発行　真宗大谷派 高山教務所
発行者　大町慶華
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
＊毎月20日発行　50,000部
三市一郡無料配布
印刷　山都印刷株式会社

念じられ照らされて

ご回壇に参らまいか

（語り）夏野右近

〈略歴〉
一九二六年生まれ。高山教区清見組満成寺前住職。城端別院元輪番。清見保育園元園長

飛騨一円の寺院で「ご回壇」のお座が勤まる時期が来ました。今回は、ご回壇の使僧を五十年に渡って勤めてこられた、満成寺前住職・夏野右近さんにお話を伺いました。

【御影さま】

ご回壇は、飛騨に真宗の教えを広めた御坊の開基・嘉念坊善俊上人の行脚がもとになっとって、御坊が本山掛所（別院）になって始まったんや。別院輪番が飛騨の各在所へ行って、日頃の本山、御坊への取り持ちに対する御礼を述べ、そして法座を開く。とても輪番一人では回りきれないので、わしも使いの僧として回らしてもらった。

ご回壇には嘉念坊さんや、本山のご歴代の御影さまをお連らいする。だいたい法話をするのに縁のある御影さまをお連らいするんやな。わしは第二十代の達如上人をよくお連らいした。それにはご門徒の人が御影さまをお迎えに来られたな。

ご回壇へ行くと、最近はあまり見んけど、山門から赤土を敷いて迎えてくださった。お座が始まると、本山ご門首の御消息（現在は親鸞聖人『教行信証』総序の文）を拝読する。そして、説教は高座でやるんじゃが、総代さんが前の席で羽織袴で参っとって、使僧が高座に上がると、「お静まろー！」って言うんや。説教が始まるで静まれってことやさ。そうすると、ざわざわしとったのが静かになってなぁ。

ご回壇は寺だけを回るもんやなかった。在所の門徒の人がお迎えするんや。お座の後には席が設けてあって、およばれして泊まる。そして、また次の在所へ歩いて向かう。車のない時代やから。白川村の小白川では滑車のついたロープに籠が下がっとって、それに乗って川を渡ったりした。道中は、ご門徒の人が御影さまを大事に背負って送ってくれたんや。

【ご回壇の思い出】

馬瀬は、馬瀬川の下流の西村から川上へ順に何ケ所か回った。馬瀬に行くのは鮎の解禁日前後やったけど、最初の在所はまだ解禁日前やった。そうすると、一坊さま、次のとこ行って、あそこで鮎を食べたなんて言うなえな」と言われるもんで、「言わん」といって大きいの焼いてもらった（笑）。

在所から在所へ行くのにいくら近うても「お立ち寄り」っていう休むところがあるんやさ。その家は、御影さまが寄ることを誇りに思ってござる。桂林寺から蓮光寺の間に酒屋があるんやが、そこがお立ち寄りの場になっとって、そこの大将が「御影さまが寄らっしゃる」といってお内仏を用意して待ちかねとるんや。御影さまを床の間に掛けて、お勤めすると、そこは酒屋やもんでなぁ（笑）。白川村の馬狩の信称寺（※現在は廃寺）では、時効やで言うけど、どぶろくを飲ましてもらったこともあった。そりゃ、もう美味かった（笑）。

高根村では、ご回壇は祭りのようなもんなんやな。「ご回壇踊り」っていうのがあってな。説教しとると若い者は寺には入らずに回壇おどりに来とるわけやな。説教が長いと「坊さま、いい加減話やめんけ」と言ってきた。今はもう踊らんけど、歌は残っとるかもしれん。

【御坊さまは拠り所】

飛騨全体にとって、宗派を問わず、別院は「ごぼさま、ごぼさま」と親しまれてきた。丹生川のような禅宗の多い地域でも、「ごぼさま」と呼んどったでなぁ。

ご回壇に行くのは本当に楽しみやった。お迎えする方も楽しみに待ちうけとった。皆が集って語り合うことのできる場所やったでやろなぁ。

御坊さまが飛騨一円の拠りどころなんや。御坊さまが中心となって、お寺や人々をつないでいくってことなんやなぁ。

・・・・・・・・・・

飛騨の地で大切に勤められてきた「ご回壇」。お寺や在所で勤まるご回壇に、ぜひお参りください。

御坊へ参りゃれ
帰りにゃ寄りやれ
後生のいわれを
語り合おう…
ござれ

今年のご回壇に…
（「ご回壇踊り」の歌より）

ご坊さま 夏の暁天講座

於：高山別院　朝6時30分～7時40分　入場無料

8月1日（水）

講師：下畑五夫 氏（飛騨地学研究会々長・高山陣屋学芸員）
講題：「蓮如峠と活断層」

8月2日（木）

講師：名畑　崇 氏（大谷大学名誉教授）
講題：「私という事態－今現在説法－」

8月3日（金）

講師：西永由典 氏（高山市社会福祉協議会々長）
講題：「お互いに支えあう地域づくり」

8月4日（土）

講師：佐藤慶太 氏（福島県出身・現在下呂市フローラ勤務）
講題：「震災当日の状況」

8月5日（日）

講師：草野顕之 氏（大谷大学々長）
講題：「親鸞聖人と関東の門弟」

飛騨学場　聴講自由

◎講義：午前9時～　会場：御坊会館
8月1日～3日　講師：名畑　崇 氏
講題：「教行信証成立の背景 ― 化身土巻を読み解く ―」
8月4日～5日　講師：草野　顕之 氏　講題：「親鸞聖人伝の諸問題」
◎追弔会・講話：午後1時～　会場：本堂・御坊会館
8月1日～3日　講師：名畑　崇 氏
8月4日～5日　講師：草野　顕之 氏

ご回壇案内

【7月】
21日（土）賢誓寺［萩原町］
22日（日）慈雲寺［萩原町］
蓮光寺［馬瀬］
25日（水）西方寺［清見町］

【8月】
8日（水）秋聲寺［八日町］
18日（土）西正寺［清見町］
弘誓寺［清見町］
西教寺［朝日町］
法正寺［朝日町］
常徳寺［白川村］
法蓮寺［白川村］
蓮光寺［白川村］
19日（日）西正寺［清見町］
大徳寺［高根町］
浄楽寺［白川村］
斉入寺［白川村］
瓜巣同行［国府町］

※時間などの詳細は会所寺院にお尋ねください。

第2回ご坊文化講座

期日　8月20日（月）
会場　別院庫裡ホール
時間　午後1時30分～
講師　江馬雅人 氏（益田組賢誓寺）
講題　「宗祖親鸞聖人と御開山さま」
会費　1回毎600円

訂正

『ひだご坊』6月号「念じられ照らされて」において誤りがありましたのでお詫びして訂正をいたします。
○本文最上段19行目
【誤】サワトヴァ→【正】サットヴァ

☎テレホン法話（0577（34）2313）○7月21日～31日…窪田純氏　○8月1日～10日…山本憲人氏　○8月11日～20日…石井一美氏
☎宗教トラブル相談窓口（0577－32－0763）

『恵信尼消息』から見える親鸞像

晩年の同朋との交わり

井上　円

一二五七（正嘉一）年閏三月二日付けの手紙に、親鸞聖人は「目もみえず候う、なにごともみなわすれて候ううえに、ひとなどにあきらかにもうすべき身にもあらず候う」と記されている。時に八十五歳の年齢で、この頃から視力が弱かったものとみえる。真蹟の『教行信証』坂東本にも数箇所、小さな字を書き詰めることができずに、代筆させているところがある。その高齢に加えて、弱った視力で著作や改訂を続けられたこと自体が、驚異的なことであるが、それ以上に、心血を注いでいる自らの著作に、門弟を信頼して代筆を許していることにも驚かされる。

一二五八（正嘉二）年十月聖人八十六歳の折、下野高田の慶信が、弟子の蓮位を通して、聖人に問い合わせをしている。その蓮位の添状に「おりふし、御がいびょう（咳病）に御わずらいにわたらせたまい候」とあり、喉を患っていることがわかる。この為、慶信の問い合わせ状に、聖人が添削を施して返信するという、珍しい書状が伝わっている。その添状に、慶信の父覚信が、上洛の途中病にかかり、同行が帰るように勧めても、「死するほどのことならば、かえるとも死し、とどまるとも死し候わんず」、「おなじくは、みもとにてこそおわり候わばおわり候わめ」と言い張って上京し、やがて聖人の元で「おわりのとき、「南無阿弥陀仏、南無無碍光如来、南無不可思議光如来」と、となえて、てをくみてしずかにおわられて候いしなり」と記している。その最後は、この添状に間違いないか、聖人の前で連位が読み上げたところ、「ことに、覚信坊のところに、御なみだをながさせたまいて候うなり」という、聖人の落涙の様子が記され、その交流の深さがうかがえる。因みに、覚信が聖人の編集した『西方指南抄』（法然上人の手紙）全六冊中の五冊を書写したものが今に伝えられている。病を冒しての書写のようである。

他に消息等に尋ねると、性信・明教・護念・円仏などが上洛しているし、真仏・顕智・専信・唯円・覚然などは、しばらく滞在しているようである。短い人は、手紙や金銭を携えたり、法門上の質問の為であり、長期の滞在者は、主にお聖教の書写の為であった。これ以外にも数人の同行が、連れ立って訪問している場合もあり、しばしば来訪者があったと思われる。

この頃の消息には、その門弟たちの死去の知らせがあらわれる。これに対して、聖人は「うれしうそうろう」とも語り、「この身はいままはとしきわまりてそうらえば、さだめてさきだちて往生しそうらわんずれば、浄土にてかならずかならずまちまいらせそうろうべし」と、浄土で待っていると誓っている。これと同じような文が、『恵信尼消息』（第十通）に見られる。「わが身は極楽へただ今に参り候わんずれ。なに事も暗からずみそなわしまいらすべく候えば、かまえて御念仏申させ給いて、極楽へ参り合わせ給うべし」と、恵信尼は、浄土での再会を覚信尼に勧めている。

一二六〇（文応一）年十一月十三日、聖人八十八歳、年月日の明確なものでは最後の消息に、疫病により死者が多数出た中で、「なによりも、こぞことし、老少男女おおくひとびとの死に合いて候うらんことこそ、あわれにそうらえ」と語りはじめて、生死無常の教えをふまえて、「善信が身には、臨終の善悪をもうさず」と、死に方ではないと示している。四十三年前に生き別れた法然上人は、「浄土宗のひとは愚者になりて往生す」と説かれた。そして、「ものもおぼえぬあさましき人々」が念仏一筋になっている姿を見て、「往生必定すべしとて笑ませたまう」法然上人を、親鸞聖人は「いまにいたるまでおもいあわせられ候う」と信頼している「いなかの人々」との交流の中でも実証された、確かなことだと語るのである。

お願い

ボランティア委員会では、**端切れ・古布や着なくなった着物の切れ**を集めています。被災地の宮城県女川町では、ご婦人たちがその切れを使って、手縫いで鍋敷きや巾着袋などの小物を作っています。仕事という生きがいをもって、元気に頑張っています。高山から古布を送りたいと思いますので、ご協力をよろしく願いします。

※受付…高山別院

別院宝物虫干し

期日　7月24日（火）
※雨天中止
会場　別院庫裏ホール
時間　午前10時～午後3時
※ご自由に拝観ください。

報告と御礼

6月25日（月）～26日（火）の「婦人研修会」が無事に開催できました。ありがとうございました。その折に、東日本大震災の義援金として、8,435円を皆様よりお寄せいただきました。ご協力誠にありがとうございました。

大谷婦人会・高山教区坊守会

お寺へ行こう！

子ども会やってるよ！

【鉄砲町】
真蓮寺（0577-34-2507）
毎月1回（土曜か日曜）午前9時～
専念寺（0577-34-2506）
毎月1回（土曜か日曜）午前9時～

【町方】
還來寺（0577-78-1071）
毎月2回（日曜日）
午前9時～

【一之宮】
往還寺（0577-53-2004）
7月22日（日）午前8時～9時
8月22日（水）午前8時～9時

【久々野】
久々野教会（0577-52-2633）
8月23日（木）午前8時30分～9時30分

【尾崎】
永養寺（0576-55-0323）
毎月第4土曜日　午前9時頃～
○夏休み期間中○
7月28日（土）　午前9時～
8月24日（金）　午前9時～

【小坂】
淨福寺（0576-62-2208）
7月21日（土）午前9時30分～
8月8日（水）午前10時30分～
8月24日（金）午前9時30分～

【宮田】
賢誓寺（0576-55-0747）
7月24日（火）午前9時～
8月24日（金）午前9時～
○おとまり会○
8月16日（木）午後3時～
8月17日（金）朝食後解散

【白川】
常徳寺（05769-5-2029）
○子ども報恩講○
9月4日（火）午後7時～午後8時30分

みなさんぜひ遊びに来てください！
お問い合わせは各お寺まで。

夏休みおつとめ会開催寺院紹介

【高山】
本教寺（0577-32-1748）
7月23日（月）～8月10日（金）
（土・日曜を除く）ラジオ体操終了後
秋鷹寺（0577-33-9324）
毎日　ラジオ体操終了後
西蓮寺（0577-33-8090）
7月30日（月）～8月3日（金）
ラジオ体操終了後
随縁寺（0577-32-2567）
7月21日（土）・28日（土）（会場:随縁寺）
午前7時30分～
8月4日（土）（会場:下切町公民館）
午前7時30分～
寶圓寺（0577-32-4649）
毎週火・木曜日　ラジオ体操終了後
了心寺（0577-32-5956）
毎週日曜日　朝8時30分～
誓願寺（0577-32-5241）
7月21日（土）～30日（月）
ラジオ体操終了後

【町方】
還來寺（0577-78-1071）
7月23日（月）～31日（火）（土・日曜を除く）
ラジオ体操終了後

【国府】
南春寺（0577-72-2836）
7月23日（月）～31日（火）
午前6時45分～7時15分
西念寺（0577-72-4585）
7月21日（土）～24日（火）（会場:西念寺）
7月27日（金）～30日（月）（会場:西念寺）
ラジオ体操終了後
7月21日（土）～24日（火）（会場:金場公民館）
ラジオ体操終了後

【荘川】
淨念寺（05769-2-2094）
7月21日（土）～8月24日（金）
午前6時30分～午前7時
寶藏寺（05769-2-2124）
7月23日（月）～27日（金）
ラジオ体操終了後
蓮勝寺（05769-2-2043）
7月23日（月）～8月4日（土）（会場:蓮勝寺）
ラジオ体操終了後
8月6日（月）～10日（金）（会場:下野々俣公民館）
8月17日（金）～24日（金）（会場:下野々俣公民館）
ラジオ体操終了後

【白川】
常徳寺（05769-5-2029）
7月21日（土）～29日（日）
ラジオ体操終了後